

有限会社 ^{いーあーるえぬ} エコ・ライス新潟

新潟県長岡市脇川新田町字前島970-100
TEL:0258-66-0070 & FAX:0258-66-0447

クイーン倶楽部だより 7月号

産学地域連携Project

東京家政大学の学生と ^{しらす} 幻の酒米「白藤」復活に挑戦！ 第2弾

昔ながらの手取り草取りにチャレンジ！

土曜日の夕方まで大学の講義を受けた後、夜行列車で早朝の長岡へ。朝から草取りをして夜行列車で月曜日の講義に間に合わせる0泊3日の強行スケジュール。

田植から1ヶ月半。成長した稲に驚いたと共に、生まれて初めての草取り。今回は素足で田んぼに入りました。

今回は素足で田んぼに入りました。次回は9月収穫作業をする予定です。



すすくと伸びた白藤の田んぼを見ながら生産者の阿部がレクチャー。田植えの時から3倍近く伸びました。



人間にたとえると高校生ぐらいの鴨。たんぼで草取りをするのはだいたい1ヶ月ぐらいです。



手押し一輪車の除草機。学生では力が足りずに泥に潜ってしまい、なかなか前に進みません。



昔はこんな道具で草取りをしていました

Dr中村のお米の話



中村 信也(なかむらのぶや)

整形外科医師。東京家政大学家政学部栄養学科教授として教鞭をとり、「食と医療」の医療薬膳研究の第一人者として活躍中。

第7回 除草機

懐かしい響きがあります。私の田舎(鹿児島)では「田車」と呼んでいましたが、皆さんの所では何とよぶでしょうか。除草機ですからどんな草でも取ってみせる、ということになります。あに図らんや田の草取り専用です。だから、一年のうち出勤するのは数回で、後は倉庫の肥やしという存在でしたが、今は消えてしまいました。除草機は雁爪と呼ばれる潮干狩り用具の親分みたいなものが進化したものです。除草機は動力部と除草部からなります。これで草をばったばたと引き抜いていくという荒っぽいものです。車輪は縦二連式もあれば、横二連式もあります。(使用経験のない方に説明してもわかりずらいとは思いますが。)

私は除草機といえば蛇と蛙を思い出します。蛇がやたらと出る田で除草機を押していると、蛇がのんびりと前を横切っていきます。ある日、蛙がものすごい速さで通り過ぎていき、その後を蛇がこれまた凄い速さで通り過ぎていきました。どちらの目も血走っていて、生存競争を目の当たりにしました。

そういう思い出深い農機具もトラクターの出現で消えました。代わりに除草農薬が出現しました。農薬は手軽で、人で要らずに田から草はきえましたが、蛇も蛙も泥鰌(どじょう)も消えました。私の飼った猫も水を飲み死にしました。やがて、田から生き物が減るのは行き過ぎと人々は悟り、人手の代わりに鴨が出現しました。大変な進化ですが悲しい鴨の運命を伴います。これから鴨の幸せを考えた農業に進化してほしいものです。

※あに図らんや...考えもしない、以外にも

《鴨は暑い日中はあまり動きません。畦で昼寝をしています。学生たちが泥だらけになりながら草取りする姿を横目で眺めながら、畦に登ったりのんびり田んぼの中を泳いでいました。》

《さすが！家政大生。朝の4時半に長岡についてすぐに24時間スーパーで買出しをし、あつという間に料理開始。朝ごはんとお昼ごはん用のおにぎりを手際よく作っていました。》

《草取りが終わって泥だらけの学生に山古志村近くの蓬平温泉「福引屋」さんから温泉を提供していただきました。ありがとうございました。》